

高次救命災害治療センター	
診療科目：救急医学、集中治療医学	
診療科担当研修責任者名： 西山 慶（救急科診療科長） 診療科連絡先担当者名： 本多 忠幸（救急科エデュケーションマネージャー）	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：6人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
救急科専門医9人、集中治療専門医8人、麻酔科専門医5人、総合内科専門医1人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
救急医学会指導医2人、麻酔科指導医1人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
当部門は高次救命災害医療センターとして日本海側初めての高度救命救急センターである。救命救急センター20床と集中治療部12床の計32床で運営され、院内の重症患者対応と救急外来での救急車搬送患者（第3次救急患者）を対象に診療を行っている。診療実績として、救急車搬送台数は年間約3,300台以上、救急外来受診患者数は5,500人以上で、増加傾向にある。2012年10日よりドクターヘリ事業を開始し、現在年間1200件以上のフライトを行っており、日本有数のドクターヘリ基地として新潟県全域を視野に入れた救急医療体制を行っている。当センターは、救急科専門医指定施設・指導医指定施設（日本救急医学会）、専門医研修施設（日本集中治療医学会）、認定施設（日本航空医療学会）、専門医認定研修施設（日本熱傷学会）である。	救急部研修では、ドクターヘリ及び救急車で救急外来に搬送される患者の初期対応を行い、チーム医療の一員として研修を行う。対象となる疾患は、心肺機能停止、多発外傷、急性心筋梗塞、急性呼吸不全、敗血症等の重症疾患から環境障害や急性薬物中毒、熱傷と多種に及ぶ。救急科入院となった患者は救命救急センターに入院となり、研修医は、指導医とともに患者を受け持つ。予定入院とは異なり、リアルタイムでトリージ、診察、診断、治療を行うことで、救急患者に対する対応を学ぶことが出来る。さらに超音波検査、中心静脈穿刺、気管挿管等の手技も上級医・指導医のもとで学べる。また、救急科では2交代制（日勤・夜勤）をとっており、研修医にも夜勤を行ってもらう。救命救急センターには24時間体制で専従医師が待機しており、夜勤帯においても3名の上級医・指導医が当直している。従って、常に上級医・指導医のもとで研修が行え、的確な指導・アドバイスを受けることができる。午前8時30分に症例検討・回診を行い、問題点を積極的にディスカッションしている。毎週、テーマを決めて抄読会を行っている。希望者はオンラインでのドクターヘリ実習を行うことも可能である。